

## 論 文 要 旨

### Visualization of Amount of Nursing Care Provided and Accessibility to Nursing Care Using DPC in Acute-Phase Inpatient Hospital Care

Matsumoto Chiharu

【背景】高齢社会の進展に伴い、侵襲の高い治療を受ける高齢患者が増加している。看護においては短い入院期間に看護資源の適正配分を行い、看護の質を保証していくことが求められる。【目的】本研究は、DPC ごとに患者の特性と看護ケア量の関係性について明らかにすることにより、看護ケアの均てん化に資することを目的とした。【方法】2008年7月1日から2010年3月31日の期間に大学病院に入院した患者の中で、肺の悪性腫瘍患者 528 名、胃の悪性腫瘍患者 170 名、大腸の悪性腫瘍患者 91 名の診療情報を対象とした。病院情報システムに蓄積されたデータから、患者の属性や看護度、自由度、輸送区分、看護ケアの実施データ（看護行為、所要時間）を抽出した。次に、各 DPC の看護ケア量に影響を及ぼす変数を用いて患者をグループ化し、各グループにおける患者の特性と看護ケア量との関係について分析した。最後に、各 DPC において患者の特性と看護ケア量の関係について分析した。【結果】看護ケア量に影響を及ぼす患者特性は、DPC によって異なっていた。看護ケア量には、全身麻酔での手術か、それ以外の治療かということと入院中の患者の ADL が主な影響要因であり、大腸の悪性腫瘍の手術患者のみに年齢が関係した。【考察】本研究の患者特性分類による看護ケア量の可視化は、患者の特性に応じて看護師の適正配置や看護資源の的確な配分など、看護ケアの均てん化を行うためのマネジメントツールとして電子カルテシステムに実装可能である。